

鳥獣被害対策の取り組みについて

1 平成29年度の取り組み状況

(1) 被害集落の半減に向けた防除対策の強化

【成果目標】被害集落の半減（3年間で500集落）による農林業被害の軽減

◆野生鳥獣に強い高知県づくりの推進

深刻な被害を受けている約1,000集落について、平成27年度から平成29年度までの3年間で、半数に当たる500集落での被害ゼロを目標に、鳥獣被害対策専門員を中心に被害集落への総合的な支援を実施し、被害額の大幅な減少を目指す。

- ・野生鳥獣に強い高知県づくりによる支援集落の拡大と合意形成率の向上。
(支援集落：230集落 合意形成率：84% → 90% (12月末現在合意集落：175集落))
- ・鳥獣被害対策専門員の体制強化による被害集落支援の充実。
(JA高知春野1名増員(配置体制：12JA 16名))
- ・国交付金等による防護柵設置等へのきめ細かな支援の実施。
(鳥獣被害防止総合対策交付金の活用：138,290千円(H28:77,206千円))
- ・第2期目の対策に向けた支援集落の選定

(2) シカ捕獲目標3万頭達成に向けた捕獲対策の強化

【成果目標】シカ捕獲3万頭の捕獲体制の確立

◆新規狩猟者の確保と技術向上

捕獲の担い手である狩猟者の確保と捕獲技術の向上による捕獲頭数の底上げ。

- ・新規狩猟者の確保
(狩猟フォーラムの開催による若者や女性へ普及啓発：フォーラム参加者193名)
(わな猟のシカ捕獲体験ツアーによる新規狩猟者の確保：ツアー参加者20名)
(狩猟免許試験合格者数：224名(12月末時点))
- ・わな捕獲技術講習会による捕獲技術の向上：(8回：83名)

◆シカ捕獲の推進

くくりわなの購入支援や捕獲困難地での捕獲などによりシカの捕獲を推進する。

- ・狩猟者の技術に応じた使い勝手の良いくくりわなの購入を支援しシカの捕獲を推進。
(シカ捕獲推進事業費補助金交付決定：14市町村(12月末時点))
- ・指定管理鳥獣捕獲等事業を活用した山岳地等でのシカ捕獲を実施
(実施計画作成等検討会(7/27、9/14)、捕獲実施(11月～2月(四万十町、四万十市))
- ・狩猟期間の延長を検討
(意見交換：7/19、7/20、7/21、特定鳥獣保護管理計画検討会：1/23)

◆シカ肉等の有効活用の推進

捕獲したシカ等を地域の資源として有効活用するため、消費拡大等に取り組む。

- ・研究会活動による関係者の連携や情報共有(8/22、3月〔予定〕)
- ・シンポジウムの開催による情報や課題の共有(1/12)：参加者62名
- ・ジビエフェアによる消費拡大の取り組み(1/15～3/14)：参加40店舗
- ・集落活動センターにおけるジビエカーを活用した生産・販売モデルの育成。(8/12 梶原町がジビエカーを購入、2/9 ジビエカーによる解体処理講習会〔予定〕)

2 課題

(1) 被害集落の早期解消に向けた防除対策の強化

- ・引き続き支援を必要とする被害集落への支援の継続
- ・合意形成後の集落等へのフォローアップの徹底

(2) シカ捕獲目標3万頭達成に向けた捕獲対策の強化

- ・わな猟に重点を置いた捕獲対策の強化
- ・さらなる新規狩猟者の確保と未登録狩猟者の参画促進
- ・わな猟の捕獲技術の向上
- ・密度が薄く広範囲に生息するシカの効果的な捕獲方法の検討

3 平成30年度の取り組み方針・進め方

(1) 被害集落の早期解消に向けた防除対策の強化

【成果目標】合計1,000集落での被害ゼロによる農林業被害の軽減

◆野生鳥獣に強い高知県づくり第2期目の推進

- 被害の深刻な集落を対象に3年間で新たに500集落を支援する「野生鳥獣に強い高知県づくり」を継続（H30～32年度）
- 高知県づくり第1期目（H27～29年度）等で合意した集落への丁寧なフォローアップの実施
 - ・鳥獣被害対策専門員配置事業委託料
高知県づくりを中心となって推進する鳥獣被害対策専門員を配置（12JA16名）
 - ・野生鳥獣に強い県づくり事業委託料
鳥獣被害対策専門員の活動を野生動物専門家として科学的に支援（支援方法を見直し）
 - ・鳥獣被害防止総合対策交付金
集落ぐるみで設置する防護柵への支援で集落の合意形成を推進
 - ・野生鳥獣に強い県づくり事業費補助金
国交付金の要件を満たせない防護柵等へのきめ細かな支援
新たにサル用防護柵のモデル設置への支援やくくりわなの維持補修に係る支援を追加

(2) シカ捕獲目標3万頭の早期達成に向けた捕獲対策の強化

【成果目標】シカ捕獲3万頭の捕獲体制の確立

◆わな猟の強化によるシカ捕獲の推進

- シカ捕獲の8割を占める「わな猟」に重点を置いた捕獲の強化
- 担い手の確保と育成
 - ・新規狩猟者確保事業委託料
狩猟フォーラムとわな猟体験ツアーを一体的に実施することで担い手を確実に確保
 - ・新規狩猟者確保事業費交付金
狩猟免許取得のための講習会受講料や銃所持のための射撃教習受講料の支援を継続
 - ・狩猟者登録促進事業
わな猟初心者や未登録者の参画促進のためのくくりわな製作講習会の実施
 - ・捕獲技術向上事業委託料
わな名人によるマンツーマン指導等での技術力の向上
- 捕獲の推進
 - ・【拡充】シカ捕獲推進事業費補助金

狩猟者の使い勝手が良いくくりわなの購入を支援

- ・シカ個体数調整事業費交付金

狩猟によるシカ捕獲に対する報償金制度で捕獲を推進

◆効果的な捕獲方法の検討

密度が薄く広範囲に生息するシカの効果的な捕獲方法の検討

- ・【新規】ICTを活用した罠いわな等による新たなシカ捕獲の実証実験

◆有効活用の推進

捕獲した鳥獣を地域の資源として有効活用を図るための消費拡大や安定供給体制に向けた支援

- ・ジビエ活用推進事業委託料

ジビエフェアの開催や研究会活動等による有効活用の推進

- ・ジビエ利用拡大狩猟捕獲支援委託料

安定供給の体制づくりを目指して処理施設への搬入や産業廃棄物処理を支援

【これまでの取り組み】

◆平成24年度から鳥獣対策を抜本強化

- ①集落ぐるみで取り組む総合的な対策で被害ゼロにするモデル集落(3年間で31集落)を育成し、成功事例を構築
- ②JAに配置した鳥獣被害対策専門員による農家等への支援体制の充実

◆平成27年度からさらなる強化

- ①被害集落半減に向けた防除対策の強化
 - ・野生鳥獣に強い高知県づくりによる被害集落への支援(被害の深刻な1,000集落について、3年間で(H27~29年度)で500集落を支援)
- ②鳥獣被害対策専門員を拡充し支援体制を強化
 - ・9JA10人(H24)⇒12JA16名(H29)
- ③防護柵の設置促進
 - ・国交付金や県補助金により集落ぐるみでの効果的な防護柵の設置を支援



☆集落ぐるみでの被害対策に合意形成した集落数
H27~28: 294集落、H29: 147集落(10月末現在)
H29年度末で500集落予定

◆シカの年間捕獲目標3万頭の達成に向けた捕獲の強化

- ①新規狩猟者の確保・育成
 - (目標: 新規狩猟者年間500人の確保)
 - ・受験機会の拡大や臨時試験の実施
 - ・予備講習会や射撃教習の受講料を補助
 - ・高知県版シカ捕獲マニュアルの無償配付
 - ・わな猟の捕獲技術講習会
- ②捕獲の推進
 - ・くくりわなの無償配付(3年間で12,900個を配付)
 - ・国、県の捕獲報償金による支援



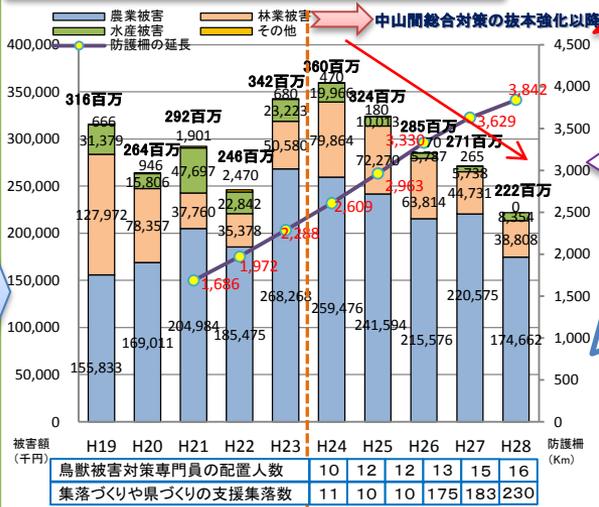
◆平成29年度からのさらなる強化

- ①新規狩猟者の確保・育成
 - ・狩猟免許出前講座の開催(農大・林業学校等)
 - ・わな猟体験ツアーで狩猟の魅力を発信
 - ・自衛隊や警察OBへの狩猟免許取得の働きかけ
 - ・くくりわな製作講習会による捕獲参画の促進
 - ・わな猟の初心者向け講習会の開催
 - ・わな名人による初心者のマンツーマン指導
 - ・わな名人のDVDを配付し技術を効果的に普及
- ②捕獲の推進
 - ・使い勝手の良いわなの購入経費を助成
 - ・国、県の捕獲報償金による支援
 - ・山岳地など捕獲困難地での組織的な捕獲の実施



【成果と課題】

野生鳥獣による農林水産業被害額と集落対策の相関



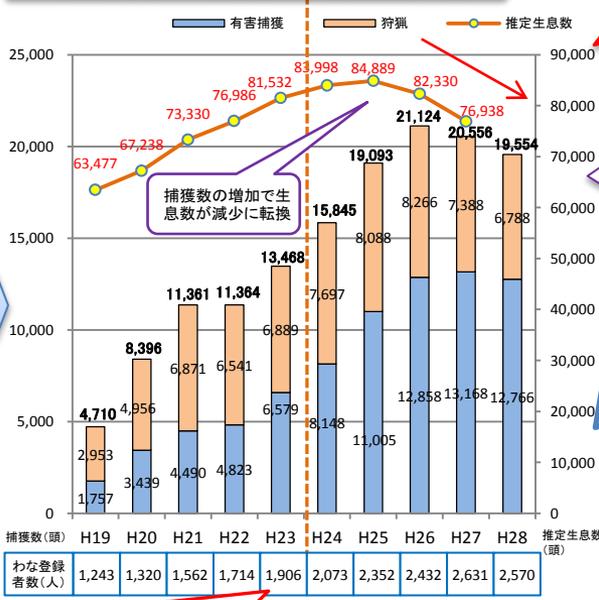
集落対策が被害額の減少に効果

しかし、被害額は減少傾向にあるものの依然として2億円余と高い水準(被害額の約8割が農業被害)

【課題】

- ・引き続き支援を必要とする深刻な被害集落が延べ700集落存在
- ・引き続き高知県づくりでの支援が必要
- ・合意形成後の531集落(予定)も丁寧なフォローアップが必要
- ・農地の防除効果が高い防護柵の設置促進

わな猟登録者とシカの捕獲数、シカの推定生息数の推移



わな猟への支援策がシカの捕獲頭数の増加に効果

しかし、昨年は、わな猟狩猟登録者数が頭打ち状況に、また、一人当たりの捕獲頭数も2.1頭にとどまる

【課題】

- わな猟に重点を置いた捕獲対策の強化が必要
- わな猟新規狩猟者の確保と未登録狩猟者への働きかけによるわな猟への参画促進
- わな猟の捕獲技術向上による捕獲頭数の底上げ
- 密度が薄く広範囲に生息するシカの効果的な捕獲方法の検討

わな猟がシカの捕獲頭数を底上げ(狩猟者確保と捕獲技術向上が必要)
◆わな猟の狩猟者の増加(H19比約2倍) ◆わなによる捕獲割合80.7%(※狩猟期)

【H30~取り組み強化の方策(案)】

◆被害集落の早期解消に向けた防除対策の強化

- 野生鳥獣に強い高知県づくり第2期目の推進
 - ・被害の深刻な集落を対象に3年間で新たに500集落を支援する「野生鳥獣に強い高知県づくり」を継続(H30~32年度)
 - ・合計1,000集落の被害ゼロを目標に対策への合意形成を支援
- 合意形成集落への丁寧なフォローアップの実施
 - ・高知県づくり第1期(H27~29年度)等で合意した集落へのフォローアップの実施

- ①鳥獣被害対策専門員配置事業委託料 (45,808千円)
 - *高知県づくりを中心となって推進する鳥獣被害対策専門員の配置(12JA16名)
- ②野生鳥獣に強い県づくり事業委託料 (4,836千円)
 - *鳥獣被害対策専門員の活動を野生動物専門家として科学的に支援
- ③鳥獣被害防止総合対策交付金 (457,410千円)
 - *集落ぐるみで設置する防護柵の支援で集落の合意形成を推進
- ④野生鳥獣に強い県づくり事業費補助金 (27,200千円)
 - *国交付金の要件を満たせない防護柵の設置へのきめ細かな支援
 - *新たにサル用防護柵のモデル設置への支援やくくりわなの維持補修に係る支援をメニューに追加



被害の深刻な集落を対象に3年間500集落を計画的に支援

これまでの合意形成集落も丁寧にフォロー

◆シカ捕獲3万頭の早期達成に向けたわな猟の強化

- わな猟の強化によるシカ捕獲の推進
 - ・シカ捕獲の約8割を占める「わな猟」に重点を置いた捕獲の強化
- 【担い手の確保と育成】
 - ①新規狩猟者確保事業委託料 (5,826千円)
 - *狩猟フォーラムとわな猟体験ツアーを一体的に実施することで確実な確保
 - ②新規狩猟者確保事業費交付金 (4,040千円)
 - *狩猟免許講習会受講料や射撃教習受講料の定額支援
 - ③狩猟者登録促進事業 (1,320千円)
 - *未登録者等の参画促進のためのくくりわな製作講習会
 - ④捕獲技術向上事業委託料 (2,500千円)
 - *わな名人によるマンツーマン指導等での技術力の向上

わな猟へ重点的な支援で捕獲を一層強化



わな猟の担い手確保と技術の向上による捕獲数の底上げ

- 【捕獲の推進】
 - ⑤シカ捕獲推進事業費補助金 (23,500千円)
 - *狩猟者の使い勝手が良いくくりわなの購入を支援
 - ⑥シカ個体数調整事業費交付金 (54,304千円)
 - *狩猟によるシカ捕獲に対する報償金制度で捕獲を推進
- 効果的な捕獲方法の検討
 - ⑦指定管理鳥獣捕獲等事業委託料 (10,000千円)
 - *ICTを活用した囲いわな等による新たなシカ捕獲の実証実験
- 有効活用の推進
 - ・捕獲した鳥獣を地域の資源として有効活用を推進
 - ⑧ジビエ活用推進事業委託料 (4,000千円)
 - *ジビエフェアや研究会活動等による有効活用の推進
 - ⑨ジビエ利用拡大狩猟捕獲支援委託料 (6,700千円)
 - *安定供給の体制づくりを目指して処理施設への搬入や産業廃棄物処理を支援



守り
防除(防護柵の設置などの防除)

攻め

捕獲(わなや銃による捕獲)